

県立松陽高等学校 令和7年度 第1回 学校運営協議会議事録

日 時 令和7年6月18日（水） 10時00分～11時30分

会 場 本校会議室

出席者 【委員】

見目 りえ （本校PTA会長）
中山 懐利 （和泉北部連合自治会長）
有元 典文 （横浜国立大学教育学部教授）
谷澤 直人 （横浜市立いずみ野中学校長）
笠原 昭彦 （本校同窓会会長）
石神 貴子 （本校校長）

【本校職員】

森本雄二（副校長）、小笹雄二（教頭）、佐藤 昇（事務長）、
岡野 晃（総括教諭）、田嶋美和（総括教諭）、松村慶一（総括教諭）、
虻川純平（総括教諭）、石澤和也（総括教諭）、豊岡博之（教諭・記録）

令和7年度学校運営協議会委員委嘱（校長）

令和7年度第1回学校運営協議会成立の確認

1 校長挨拶

2 出席者自己紹介

3 会長・副会長選出

本校PTA会長 見目 りえ 氏 学校運営協議会会長として承認
和泉北部連合自治会長 中山 懐利 氏 学校運営協議会副会長として承認

4 配付資料

- ・「学校要覧」
- ・「神奈川県立学校のコミュニティ・スクール」（県教育委員会パンフレット）
- ・「令和7年度 学校紹介チラシ」
- ・「別添資料」

〔次第〕

〔県立高校指定事業（令和7年度指定）3年間計画書〕

〔令和7年度 県立高校指定事業（令和7年度指定）単年度計画書〕

〔学校いじめ防止基本方針〕

〔松陽SSEグランドデザイン〕

〔令和7年度 松陽健康プログラム〕

5 令和7年度学校目標・取組内容（学校要覧P.6～7）について
各グループ・リーダーより説明後、委員との質疑応答・意見聴取
【各グループ・リーダーより】

○生活グループ・リーダーより

- ・教育相談に係る案件が特に学校生活にまだなじめない1年生に増えつつある。サポートドックはじめ様々な場面を通して職員で情報共有しながら学校として支援していきたい。
- ・生徒指導面では問題なく過ごせた。駐輪、服装、公共マナーなど引き続き指導していきたい。
- ・交通安全では事故ゼロが続くよう、マナーアップ指導を継続する。
- ・生徒一人ひとりが成長できるようサポートしていきたい。

○管理渉外グループ・リーダーより

- ・予算が限られる中、新規購入だけではなく現状ある物品をうまく活用しながら、花壇整備ほかPTAからも支援もいただきながら、施設設備（パイプ椅子や部活動で多用する製氷機など）を整備していく。
- ・5月に防災訓練を実施した。例年より避難確認までの所要時間が大幅に短縮できた。災害時に備えた喫食訓練や、地域の農家と連携して種芋を入手して、ジャガイモやサツマイモの栽培や収穫体験など美化委員や生徒ボランティアとともに実施している。

ジャガイモ収穫風景 6/13(金) 写真掲示

○学習推進グループ・リーダーより

- ・カリキュラムの変更 現1年生（54期生）2年時より（物理・化学）・社（日本史探究・世界史探究）の選択、いわゆる理系・文系の選択が導入
- ・カリキュラム変更に伴い授業一コマ55分から50分に変更になった。
これにより木曜日の7時間が復活

○進路推進グループ・リーダーより

- ・組織的かつ面談によるきめ細かな進路指導を行っている。模試結果などパソコンのデータを見せながら振り返り指導に役立てている。
- ・卒業生の進路先については昨年度末3月の報告と大きくは変わらないが国公立進学者は過年度を含まず16名と躍進した。
- ・今年度は3年生が8クラスで昨年比1クラス増えるが、進路室をより利活用できるようにしていきたい。昨年度は就職者が0だったが、52期で該当者ができればきめ細かく対応していきたい。

○開発推進グループ・リーダーより

- ・学校広報活動の場面で「松陽は倍率が下がっているのに、進路実績が上昇しているのはなぜか？」との声を複数いただいた。実態として松陽のボリュームゾーンが、かつての日東駒専からGMARCHにシフトしてきているが、まだ外部一般には知られていない。
- ・県立高校指定事業に関して、昨年度までは「主体的に学習に取り組む態度」が研究テーマだったが、令和7年度から新たに「資質・能力を伸ばすための評価」をテーマに授業改善に取り組んでいる。
6/20(金)には横浜国大の鈴木雅之先生を講師に迎え、校内研修予定。

○活動推進グループ・リーダーより

- ・生徒中心に行事を決めている。生徒と教職員とのランチミーティングを定期的に開催している。校長先生はじめ教員とも堅苦しい雰囲気にならないようにして、率直な意見交換の場を作っている。
- ・6月には体育祭が無事終了
- ・部活動の加入率は83%（内訳 男子81.9%、女子83.9%）
- ・バスケットボール部とフェンシング部は関東大会に出場

【各委員よりの感想・質問・意見】

（感想・意見）

- ・進路実績に対する高校受検の低倍率の話に驚いた。
- ・授業を参観して、中学生とは発達段階の違いはあるとしても生徒さんが落ち着いていること、ICTが進んでいることが感じられた。
- ・書道部や学習支援ボランティアなどの交流の場を継続してもらいたい。
- ・松陽高校の良さをもっと発信してもらいたい。

（質問・感想）及び質疑応答（⇒）

- ・授業改善の成果が進路実績につながっていると実感されているか？
朝と帰りに元気よく「行ってきます。」「ただいま」の声が聞ければ子供が充実した楽しい学校生活を送っていることが分かり親として望むのはそれだけ。大学実績だけでは測りきれない力もあると思うが。

（進路推進グループ・リーダーより⇒）

- ⇒それぞれの授業に資質を伸ばすためのしかけがあるように、模試も一つのきっかけとして、事前・事後の指導を通して自己の力をどう伸ばすかを分析する場になっている。

（意見）それには職員が一枚岩にならないと

（進路推進グループ・リーダーより⇒）

- ⇒肌感覚として、職員は同じ方向を向いて取り組んでいると思います。

（質問）・教育相談の件数増加に関してプッシュ型のサポートドックについて、3年生くらいになると、慣れてきて面倒だからあえて語ることはせず、相談しないで隠してしまうケースが予想されるが、どう対応される？

（生活推進グループ・リーダーより⇒）

- ⇒1年生の中に学校になじめず、学校に来られない生徒も複数いる。全体像の把握は今、2人体制で面談を実施したばかりで集約中で、全体把握が出来次第、ご指摘の点の踏まえスクールカウンセラーとも相談しながら対応していきたい。

（質問・意見）・塾も含めた地元の声でよく耳に入り、気になっているのが、過去には見られなかった松陽生の電車内などでの「埴輪スタイル（女子がスカートの下に学校ジャージをはく）」、入学してくる生徒の居住地が広範囲に変化したことも関係あるのでは？

- ・以前、同窓会として電車広告で学校広報に協力させてもらったことがあるが、手伝えることがあればお役に立ちたい（できれば学校で動画作成をしてもらえればより良いPRになる）。

（生活推進グループ・リーダーより⇒）

- ⇒他校でも駅などで活躍している部活動実績を広報しているのを見かける。このような広報に向けて各方面でご協力いただけると嬉しい。

(意見)

- ・出身中学校の地域別入学者の推移などの分析も重要だと思う。遠くが増え近くが減っているのでは？
- ・51期生は入学時の倍率が高かったため、進路実績が上がるのはある程度予想できる。一般的にも入学時低倍率の場合は、先生方の努力だけではどうしようもない入学してきた生徒個人の栄達・名誉などに向かう資質に負う部分もある。
- ・松陽高校は多くの生徒がペアワークやグループワークにも嫌がらずに前向きに取り組んでいる。マスク着用率低い＝表情を隠さない＝open
一方、ペア・グループになじめない生徒には学校はきついだろう。
- ・松陽高校は、この「個人の名誉・栄達」を満足させる部分と「皆と仲良く」の部分のバランスをどううまくやっていくかが課題

(意見・感想)

- ・学校案内のチラシの生徒の声から楽しい学校の雰囲気が伝わってきます。
- ・以前見ましたが、入学式の閉式後の退場した1年生を迎える部活動の勧誘での生徒たちのお祭りのような雰囲気が印象的です。まだ、続いているのですよね。

○(感想・意見)

- ・授業参観して生徒はよく集中している。ちゃんとしていけば希望の大学に行けそうだが、一方で2極化とまでは言わないまでも、幅広い生徒が入ってきている感じがする。
- ・農学部のような活動まで取り組んでくださり先生はとても忙しいとは思いますが、松陽のバランスの良さをPTAも支援していきたい。
- ・今度のチラシは良くできている。素晴らしい取組をしているのに謙虚すぎる、もっと図々しくアピールしてもいい。広報不足。
- ・戦後、教育に1本芯がなくなってきている。他人には思いやりをもって優しく接する、他人が見ていないところでも努力する、ゴミを拾うなど、徳育が必要であると感じています。

6 令和7年度活動予定

○副校長より

- ・第2回学校運営協議会予定 11月に午後の開催も含め予定
- ・9月6日(土)7日(日)松陽祭、11月7日(金)公開研究授業が開催予定
- ・「神奈川県立学校のコミュニティ・スクール」(県教育委員会パンフレット)の説明、「第三者の視点の評価」を有元委員及び谷澤委員に依頼し、本協議会で了承された。